不登校児童・生徒支援事例報告書

不登校生徒に対する別室登校の有用性について

不登校生徒の状況

当該生徒は中学校２年生で、友人との関係構築の困難さや生活習慣の乱れ、学力不振からの登校しぶりが小学校時代から続いている。家庭環境も複雑で、保護者の支援が得られにくい。２年生に進級した頃から教室内での学習に対する忌避感が高まり、欠席がちになってきた。

具体的な取組

〇組織的対応力の向上

多くの視点から当該生徒を支援できるように、別室指導支援員や特別支援教育コーディネーターが中心となって当該生徒の状況の把握に努めた。また、サポートチームへの情報共有を徹底し、こまめにアセスメントを行い、対象生徒への有効な支援を目標とした。

〇欠席日数減少に向けた取組

学力不振による登校しぶり解消のため、学力向上パワーアップサポーターと連携し、個別指導による学力補充を試みた。別室指導支援員が学習状況のフォローアップを行い、基礎的な学習内容の定着を深め、自信をつけさせることで登校日数の増加を目指した。

〇校内体制の強化

別室指導支援員の配置により、当該生徒の急な登校などにも即座に対応した。生徒の取組状況などが記載された支援シートを確認することで、短時間で情報の共有を図ることができ、担任や学年教員が共通理解をもって対応することができた。

〇生活習慣の改善に向けた取組

別室指導支援員やサポートチームメンバーによる対象生徒からの情報収集をこまめに行うことで、生活習慣の乱れを早期に把握できるようにした。保護者の協力を得ながら、昼夜逆転による遅刻や欠席を減らす取組を行った。

成果

毎登校後に「別室で一度調子を整えてから教室に上る」という支援が可能となった。不登校傾向のある生徒にとって、インターバルを置いてから教室に入ることは、登校意欲の向上に大変有効であり、欠席を減らす効果があると考えられる。

課題

別室指導支援員と担任との会話による情報共有の機会が少なくなるため、放課後の時間などを活用する必要があること。